

紀の時初めて仕へ、組外に列し、御書物役となり、二十人扶持を受けた。寛文十一年四十九歳で歿、子孫藩に仕へたが、三代治左衛門當榮の後断絶した。

クマカブトアラカシヒコジンジャ 久麻加夫都阿良加志比古神社 三州地理志稿に羽昨郡梨谷小山に在り、祭神記に伊都津津比古命を祀るとあると記する。今この社號はない。

クマカブトアラカシヒコジンジャ 久麻加夫都阿良加志比古神社 鹿島郡宮前に在り、式内等舊社記に、『久麻加夫都阿良加志比古神社。式内一社。熊來郷宮前村地内鎮座。祭神都努我阿良斯等也。今稱熊甲社。或云熊甲大明神。古代神寶傳來。』と見える。當社は羽昨郡の式社なるも、今本郡に屬するものは、之を郡界の變移に歸すべきか、或は社地の移動によるか。又は神名帳の誤記かを考へねばならぬ。能登名跡志に、『熊木惣社阿良加志比古神社は、中島村より十町川上宮前村に立給ふ。崇神天皇勅願所にて、社頭御建立有し也。其比は社領三千石、兩部習合の社也。今も大社にて寶物品々あり。中にも弘法大師の眞筆の法華經九卷あり。依てくまきの名ある由。同作の薬師の尊像あり。春日の作の翁の面あり。其外品々あり。近年神主四柳氏退轉して、今は能登郡清水氏預り也。祭禮は毎年八月二十日、近郷十六ヶ村の祭禮也。』とある。當社を俚俗にオクマカブトといひ、『おくまかぶとのまへ寶殿の縁のこばなで三度腰た。』などの唱歌がある。能登志徴にそれを解して、オクマカブトは神號を尊崇して御熊甲といつたのであらうといふが、實は大和の初瀬を小初瀬、同國の佐保を鳴佐保、常陸の筑波を平筑波、

上野の新田を平爾比多といふの類であらうとしてゐる。併しこの説は穿鑿に過ぎるやうだ。當社の神像は木彫で、藤原初期を下らざる作と見え、明治三十八年四月國寶に編入せられた。又本社藏の棟札は、加賀・能登二國に現存する棟札中最古のものらしく、中央に『奉修參間一面神殿一宇、弘安六年^{改元}五月廿七日庚辰神主藤原頼朝^{時力}』、その右に『南地頭藤原兼信、大工僧長^{兼力}』又左に『地頭藤原兼時、願主阿闍梨位金剛佛子幸俊』とある。その他薬師如來木造座像體高一米五三釐は、鎌倉時代の作と認められ、能登十二薬師の一として熊來薬師と稱せられたものである。

クマガヤカゲユ 熊谷勘齋由 慶長六年前田利常に召出され、祿千石で大小將番頭となり、大坂の役にも従つた。その本宗は四代の孫久太夫に至つて絶炊した。

クマガヤキユウダユウ 熊谷久太夫 祿千石、御馬廻に班した。寶永二年勇菊池十六郎武康が久太夫を訪うた時、亂心して居た久太夫は脇指を抜き、それを取押さへた武康の手に傷つけた。因つて同年知行を召放され、一類に御預となつた。

クマガヤノリナホ 熊谷敬直 通稱伴六郎。忠右衛門。字は徳通。號は止齋。延寶七年父甚六郎の遺知百五十石を受け、享保十年四十七歳で歿した。止齋正記・享保録の著がある。

クマガヤマタハチ 熊谷又八 初めて前田光高に仕へ、寛永二十年二百石を領した。子孫相襲いで藩に仕へる。

クマガヤヤサエモン 熊谷彌左衛門 本姓渡邊氏。前田利常に仕へて三百石を賜はつたが、明暦の頃改易となり、江戸の淺草で醫者が、

となつてゐた。後仙臺の伊達侯に召抱へられ、祿五百石を受け、渡邊彌三右衛門と稱したといふ。

クマガヤキヘエ 熊谷猪兵衛 前田綱紀に仕へて二百五十石を領し、延寶六年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

クマキ 熊來 萬葉集十六に『塔楯熊來乃夜良爾云々。』又『塔楯熊來酒屋爾云々。』又十七に『能登郡從三香島津・發船射・熊來村二往時作歌。香島欲里久麻吉乎左之底許具布爾能云々。』とある熊來は能登郡即ち鹿島郡に屬する地で、天正十年九月朔日前田利家の宛行狀にも熊來村と一に與へたものがある。後世熊來村の名は絶えたが、この与一は中島村の人であり、里民は俗に中島・上町二部落を熊來と稱してゐる。

クマキイン 熊來院 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録に、『熊來院、卅六町四段八、承久元年檢注定。』と見える。後世亦熊來院の名を存する。

クマキイン 熊木院 鹿島郡に屬する。藩政時代では、中島・瀬風・小牧・横見・長浦・濱田・上町・宮前・横田・外原・山戸田・谷内・別所・深浦・外・田岸の十六ヶ村があつた。

クマキガハ 熊木川 鹿島郡別所谷の西麓から發して南流し、別所を経て西に折れ、羽昨郡河内内岩穴川を併せ、田尻に至つて谷口川を併せ、上島に至つて又一支流を入れた。後東に折れ、七尾西灣に注ぐ。流程一二軒。

クマキゴウ 熊來郷 能登郡の古郷名。久萬岐と訓ずる。承久三年注進の能登國田數目録に鹿島郡熊來院があり、一官衆徒知行狀には熊木村があり、戰國以降熊木院がある。

クマキゴエ 熊木越 鹿島郡中島・上町から、羽昨郡富來へ赴く間の道路をいふ。

クマキサコシンヨウゲン 熊木左近將監 三州名跡志に、鹿島郡中島に往古熊木左近將監といふ領主があつて、その館跡があると記してある。この左近將監は應安中所領に離れ、京に登つて畠山左衛門佐基國に訴へたが、明徳二年山名氏清の亂によつて本望を達せず、内野の合戦に討死したと、後太平記などに見えるものであらう。

クマキシヨウ 熊來庄 後愚昧記永徳元年八月十二日に、『當知行之地熊來庄大津庄違亂云々。』とある。藤原公忠の領する庄園が、鹿島郡熊來地方にあつたことをいふのである。

クマキジヨウ 熊木城 鹿島郡熊來地方には城迹が二つあつて、その一は中島に在り、他は上町に存する。前者は熊木左近將監の居つた所で殿山城と呼ばれ、後者は城主を傳へないが貝田城といふ。天正四年十月上杉謙信が部將齋藤帶刀・七杉小傳次・三寶寺平四郎・内藤久彌を置いて守らせ、五年五月には長綱連が謙信の不在に乗じ、七尾を出て熊木城を屠つたといふものは、その何れを指すか詳かでない。

クマキヒヨジンジャ 熊來日吉神社 鹿島郡谷内に在つた。式内等舊社記に、『熊來日吉神社。熊來郷谷内村鎮座。舊社也。』と見えるが、今この社號を存せぬ。

クマキヤクシ 熊木薬師 ↓クマカブトアラカシヒコジンジャ 久麻加夫都阿良加志比古神社(鹿島)。

クマサカ 熊坂 江沼郡西庄に屬する部落。大聖寺藩主前田利治の時、この村領内に金坑